

旧ヤオハン吉原店再開発ビルへの 公的機能導入を提案する市民ワークショップ - 提案書 -

1.提案書	
(1) 提案の概要.....	1
(2) 個別提案シート.....	2
2.ワークショップの概要	
(1) ワークショップ開催の経緯.....	6
(2) ワークショップ開催の概要.....	6
(3) ワークショップ開催の体制と進め方.....	7
(4) 検討経過.....	8
3.資料	
(1) ワークショップ参加者一覧.....	13
(2) ワークショップ参加者募集チラシ.....	15
(3) 吉原商店街振興組合実施アンケート結果.....	16

平成 14 年 3 月

市民ワークショップ参加者一同

1. 提案書

(1) 提案の概要

提案する公的機能

今回の市民ワークショップでは、旧ヤオハン吉原店再開発ビルへ以下の4つの機能・施設の導入を提案します

富士山展望風呂

大学サテライトキャンパス

NPO・市民活動センター

高齢者複合サービス施設

富士山展望風呂は最上階へ、他は低層階への配置を想定します

これらの施設を含め、吉原のまちに関する情報をリアルタイムで発信する「ミニFM局」の併設も併せて提案します

4つの機能・施設の概要については「個別提案シート」参照

後の検討の進め方について

今後、富士市としての検討、判断を行うにあたっては、本提案と庁内各

課からの提案を同一のテーブルに並べ、市民・議会に情報

的に開かれた中で、十分検討し、判断するよう願います。

(2) 個別提案シート

提 案 施 設	富 士 山 展 望 風 呂
具体的な機能・施設	<ul style="list-style-type: none"> ・展望風呂 ・展望台
提 案 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・まちのにぎわいは、長期的には多くの市民がまちに集まり、買い物や様々な交流をすることが必要だが、短期的には難しいので、まずは観光を切り口とした市外の人々の来街 = 外圧によるにぎわいを考えたい ・吉原は富士・箱根・伊豆という我が国屈指の観光地に近く、毎日何万人という人々が、東名富士ICや西富士道路を通り過ぎているだけである。一説によれば、観光客の消費単価は地元市民の6倍にもなると言われるので、この人達に少しでも吉原のまちによってもらうことを考えたい ・そのための目玉として、再開発ビルの最上階に、地場産品PR・消費拡大の観点から総ヒノキ造りで、全国の銭湯が湯船の背景に描く「富士山」の本物が眺められる展望風呂を設置する ・近年では、油田掘削技術の温泉掘削への技術導入が進み、かなり安い単価で掘削が可能となっており、また観光振興目的であれば、県等の補助金制度の活用も可能である ・一方、入浴客から「入湯税」を徴収できるので、これにより運営上は財源的にも多少は楽になる
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の公的機能・施設の提案は、低層階への導入を主として想定したが、本提案は性格上、上層階でなければ魅力はゼロである。よって、これを上層階に、残り3つを低層階にという「並立」する形での実現を提案する ・吉原あるいは富士市の観光資源としては、この「富士山展望風呂」だけでは弱いので、富士市ならではの産業観光(再生紙工場見学)かぐや姫と湧き水の郷めぐり、富士山エコツアー、更には新たな郷土料理等と組み合わせた観光コースの一環として売り出す必要がある

提 案 施 設	大学サテライトキャンパス
具体的な機能・施設	<ul style="list-style-type: none"> ・富士常葉大学の吉原サテライトキャンパス（大淵本部キャンパスに対するサテライト） ・富士常葉大学社会人コースキャンパス（入試必要） ・市民が学べる富士常葉大、静岡大、県立大、日大国際関係学部による常時公開講座（入試不要の市民大学）
提 案 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・富士常葉大学が短大時代も含め、10年前に開学したが、高台の大淵にあることもあり、全国から集う若者が吉原のまちに出てくることはほとんどない ・一方、市が主催する市民大学は常葉大キャンパスやロゼシアターを会場に、また公民館が主催する各種講座は各公民館で開かれているが、市民の学習意欲は高く、講座によっては受講できないものもあるほどである ・今後、より少子化が進むであろう中であって、まちの中に大学が存在し、学生がキャンパスとまちを舞台に学び、生活するとともに、一般市民やまちに開かれたキャンパス（夜間社会人コース、わかりやすい市民講座等）となることにより、 <ul style="list-style-type: none"> ・学生、教職員等の消費による経済的な地域への寄与 ・数百人の若者がまちに「存在」することによるにぎわい効果 ・より高度な大学レベルの学習をはじめとする市民の生涯学習の場の広がり、そうした市民、学生、教職員間での交流の中から生まれる新たなビジネス、まちづくり等の創造的活動等が期待される ・また、富士常葉大に限らず、県内のさまざまな大学（静岡大、県立大、日大国際関係学部等）も吉原サテライトキャンパスとして開講することにより、相乗効果が期待できる
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトキャンパスを確保するのに併せ、大淵の本部キャンパスや学生の乗降が多いJR富士駅と、この吉原サテライトキャンパスをつなぐ足＝公共交通を充実することが必要である

提 案 施 設	N P O ・ 市 民 活 動 セ ン タ ー
<p>具体的な機能・施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動スペース（打ち合わせ、作業、発表、研修等の場） ・ 活動を支える設備（パソコン、コピー等） ・ 市民活動情報コーナー ・ 市民活動相談コーナー
<p>提 案 理 由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな市民活動団体やN P O（法人格の有無に関係なく）、生涯学習グループは、各地域の公民館等を活動拠点としているが、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用は予約制（それも電話・F A Xでなく直接窓口で）であり使いづらい ・ 仕事を終えてからの夜間時の利用希望が多いが、混み合っている ・ 利用時間が 21：15 までであり、時間的制約が多い（議論が盛り上がってきた所で終了のチャイムが鳴る） 等の理由から、もっと気軽に、時間的にも自由度が高く利用...打ち合わせ、作業、情報交換、発表、簡単な飲食等...ができるスペースと、コピー、パソコン等の設備を持った活動センターが必要である ・ 活動団体は、「まち」やそこに暮らす「人」と関わりを持った活動をする事が多く、こうしたセンターがまちの中にあることによって、より直接的な情報収集や交流が可能となり、活動が活発化する ・ 市民活動情報コーナー、市民活動相談コーナーには、「なんでも相談員」的な富士市のいろいろなこと...市民生活、まつり、観光、自然、産業等...に精通し、もてなしの心で対応できる「人」を配置し、市民や、はじめて富士市を訪れた市外の人が気軽に相談できるようにする
<p>備 考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ センターの運営は、市民活動情報コーナー、市民活動相談コーナーも含め、N P O等の市民団体に委託し、使う側の市民の立場に立ったネットワークの良い運営をしていくことが望まれる

提 案 施 設	高 齢 者 複 合 サ ー ビ ス 施 設
<p>具体的な機能・施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サービス施設（生きがいデイサービス事業・高齢者相談窓口事業） ・併設型休憩所（サロン・軽食喫茶）（車椅子等障害者利用可能トイレ）
<p>提 案 理 由</p>	<p>（高齢者サービス施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧ヤオハンビルの新たな建設計画が浮上し、吉原中心市街地に、にぎわい再生に向けた核となる期待が出てきた。そこでこの機会に、健常者・一人暮らし高齢者のサービスの総合的な施設づくりを考えてみたく提案することとした。 ・高齢者サービス施設は、介護保険法に基づく保険福祉事業として生きがいデイサービス事業を事業受託し、虚弱高齢者や、近隣に居住する一人暮らし高齢者の受け入れを行う。（定員20名） ・さらに、介護相談員（平成12年度厚労省事業制定による養成者）による高齢者相談窓口を開設し、家庭問題・介護保険関係などの相談を受ける。 <p>（休憩所・サロン・軽食）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その昔、青少年期を吉原本町で娯楽・飲食・買い物で過ごした郷愁を持つ高齢者や、現在周辺地域で生活されている中高年者の来街者に憩いの場所を設けて、商店街をゆったり回遊できるための、根拠地として前段の高齢者サービス施設に併用して休憩所（サロン・軽食）を置く。併せて障害者利用可能なトイレを設ける。 ・商店街で買い物をすると、その商品を休憩所に届けて貰い、休憩所では他の利用者と情報交換や談笑したり、飲食を楽しむ等リラクゼーションの場づくりにする。 ・昼食等の希望があれば、予約を受けて、商店街の飲食店から休憩所に出前配達をする仕組みをつくる。 ・なお、飲み物やレトルト食品は休憩所で供することもできる体制を配慮する。 ・NPO会員及び常葉大学生等の、接待サービスにより、暫時の憩いを取り、帰宅する時には、希望によりバス停又は岳南鉄道まで荷物の運搬サービスを行う。
<p>備 考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別の提案書でも記述があると思うが、市街地内の一般自動車の交通を制限し駐車場を商店街に隣接して設備することが、来街者の増加に反映するものと思われる。特に高齢者や児童の安全を考えると必須条件となるものと思う。

2 . ワークショップの概要

(1) ワークショップ開催の経緯

- ・ N P O 法人ふじ環境倶楽部は、平成 13 年より吉原商店街振興組合が取得、整備された「吉原小宿」を倶楽部定例会の会場として利用させていただき、N P O 法人ハイネット・富士は、やはり平成 13 年より吉原本町通り・旧ヤオハンビル向い側に事務所を設け活動しています。
- ・ こうした活動の中で、両団体の活動の拠点である吉原商店街あるいはその周辺まで含めた吉原中心地区の活気のなさを改めて感じました
- ・ そこで、ふじ環境倶楽部が活動の中で活用するワークショップ手法によって、市民のさまざまな意見やアイデア・提案を吸い上げ、これからの吉原中心地区の活気あるまちづくりを進める上での「ネタ探し」を行う「吉原中心地区まちづくりワークショップ」（3月～6月で開催）の企画・準備を進めてきました
- ・ ところが、本年1月になり、旧ヤオハンビルの再開発計画が発表され、その中に公的機能の導入も市当局側では考えたいとの報道もなされました。事務局側（両N P O 法人）では、これは「吉原中心地区まちづくりワークショップ」を進める上で、大きな検討材料の一つになると考えました。
- ・ しかし、再開発ビル計画が国の制度の中で進められるため、公的機能の導入検討にあたっては、スケジュール的に3月中に市当局に市民側の提案を行う必要があるとのことでした。このため、短い期間ではありますが、「旧ヤオハン吉原店再開発ビルへの公的機能を提案する市民ワークショップ」を行い、市民側の提案を取りまとめることとしました。

(2) ワークショップ開催の概要

第1回...3月11日(月) 19:00～21:00 吉原公民館 参加者32名

第2回...3月22日(金) 19:00～21:00 吉原公民館 参加者20名

